

表題

箕面キャンパス(OUグローバルキャンパス)を核としたユニークな社会学共創活動



- ・2021年4月、大阪大学箕面キャンパスは、繊維卸関連業の中心地である箕面市船場地区へ移転し、「OUグローバルキャンパス(※)」の実現に向け、新たな社会との共創の場として、また教育研究活動の実証フィールドとして活動を開始した。
- ・本学では初の都市型キャンパスとして、新たに近隣行政機関や地域の市民団体との連携を強化するとともに市民との共生をはかり、多彩な共創活動を進めている。
- ・今後も全学的な支援と連携のもと、箕面キャンパスに在する外国語学部、日本語日本文化教育センター、大学図書館が中心となって、グローバルでユニークな活動を地域社会に展開し、社会とともにある大学として寄与していく。

特色ある取組1(外部団体との連携)

外部団体、市民も On Campusで活動(活躍)できるような連携を形成

- ・ 箕面市、近隣団体、阪大との連携によるイベント等の開催
外部団体の参加を得て、「箕面国際フェスティバル」、国際シンポジウムを開催。
近隣団体(大阪船場繊維卸商団地協同組合)主催による連絡会も開始し、箕面船場の今後の発展について定期的な意見交換を実施。
- ・ 箕面市国際交流協会(MAFGA)との協定締結と授業等で連携
連携協定を締結し、大学内にMAFGAの活動拠点を期限付きで無償貸与。授業、イベント等を通じて、本学の国際交流の取組について深化・発信していく。
- ・ みのおエフェムと連携し、世界の魅力を発信
みのおエフェムが、日本語日本文化教育センターと連携し、留学生が国の生活の知恵や省エネに関する取組を発信(計16回放送)。

特色ある取組2(大学が運営する公共図書館)
市民が学術情報や国際文化に触れる場を構築

- ・ 市民を対象とした大学図書館の特性を活かしたサービスの提供
 - 学術情報及び豊かな学習・教育・研究環境の提供。
(外国語学部由来するグローバルな大学図書館蔵書の貸出や専門的情報の提供等)
 - 学術情報リテラシーに関わる講習会等の開催。
(生涯学習センターと連携した「図書館活用法」講座等)
 - 大学関係者による市民向け企画の開催。
(教員と学生による諸外国の絵本読み聞かせ企画やグローバルで多様な図書展示等)

特色ある取組3(大学内の運営体制)
強固なガバナンスによる円滑なキャンパス運営のシステム構築

- ・ 運営体制(OUグローバルキャンパス運営会議)
他の2キャンパス(吹田、豊中)とは異なり、キャンパスの運営を全学的なガバナンスの下で実施しており、関係する理事・副学長、部局長、本部事務担当課長等が月1回定例で、キャンパスにおける事業推進について情報共有、意見交換を行っている。
- ・ 中長期的な事業計画等を策定し、毎年度、事業のフォローアップをすることにより、PDCAサイクルの実現を図っている。

社会学共創活動により実現した主な成果



箕面国際フェスティバル

10月2-3日の2日間でのべ約6,000人の市民等が参加。「謎解きで世界旅行」、「民族衣装コレクション」などの企画を実施。



マンスリー多文化サロン

移転前の2018年10月から、毎月第3木曜日に、「マンスリー多文化サロン」を開催。箕面キャンパスで開催することで、市民がより大学を身近に感じてもらえるよう工夫。



箕面国際交流協会との連携拠点

関係者がキャンパスに週2日、常駐することで教員・学生との協働・協力が進み、授業等での連携が実現。

図書館での教員による絵本読み聞かせ企画



「フィン・フォトンさんと量子力学の世界」



「みんなあつまれ！ハンガリーのクリスマス」

(※)「OUグローバルキャンパス」とは、外国語学部、日本語日本文化教育センターを有する国立大学として、世界の言語と言語を基底とする地域の文化や社会に関する教育研究の集積拠点として、高度なグローバル人材を育成するとともに、世界への日本語・日本文化の発信基地として、さらに外国語・外国学研究等の成果を踏まえつつ地域の自治体や諸団体そして市民との社会学共創の場として発展していくことを目標とする、大阪大学が目指すキャンパス運営コンセプト。